

『講左衛門通信第40号は、まず、訂正をしなければいけないことがあるんじゃ。東円寺本堂の天井絵を描いた人の名は、東円寺の記録によると「中村錬吉常明」と書いていたんじゃが、「中村錬吉重明」の間違いだったんじゃ。確認しながら紹介しておったんじゃがな。大変失礼したのう。さて、今年1月5日に京都府八幡市にある神應寺に伺って、過去帳を見せていただいた話は37号で紹介したんじゃが、神應寺のご住職夫妻がお墓を探してくださると言ってくださったんじゃ。しかし、155年前に建てられたお墓じゃからな、簡単には見つからんじゃろうと思っていたんじゃ。ところが、10日ほど前に連絡があって、お墓が見つかったというんじゃ。善は急げと言うじゃろ。その日だけが空いていたんじゃよ。お墓参りさせていただくことにしたんじゃ。その際に、谷村家の子孫と会うことも出来て、貴重な話を聞くことが出来たんじゃ。』

『講左衛門さん、東円寺本堂の天井絵を描いたのは、「谷村仲重明」という名前が正しいでまっすん？谷村仲重明は、何歳で亡くなったでまっすん？』

『「谷村仲重明」が正確な名じゃ。41歳で亡くなったんじゃ。谷村家の家系図が残されておってな、重明亡き後、後継ぎ息子は20歳で亡くなっていて、その後は後継ぎがなく絶えてしまっていたんじゃ。谷村家の菩提寺である、常昌院で谷村家の子孫と待ち合わせをしてお墓参りさせてもらったんじゃが、常昌院の裏山一帯が谷村一族のお墓だったんじゃ。当時は、一人一人石碑が建てられていたんじゃな。忍野村では、石碑を建てられる人は限られていた時代じゃ。まして、150年前、女子供のお墓を建てることはほとんどなかったと思うんじゃ。しかし、谷村家の墓は、過去帳に書かれている方々のお墓（女子供も）があったぞ。山の斜面を平らにした所に、お墓が建てられいたんじゃが、もとは、河川に近い場所に一族のお墓はあったそうじゃ。川が何度も氾濫したので現在の所に石碑が建てられたそうじゃ。現在の所も山じゃからな、大雨が降ると土砂崩れを起こすこともたびたびあったそうじゃが、その度に、お墓をもとに戻したそうじゃ。そのような話を聞くと、谷村仲重明のお墓が残っていたことは奇跡じゃな。』



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)

『すごいはなしでまっすん。お墓の字は読めたでまっすん？』
『それははっきりと残っていたぞ。「六僮」と書かれてあった。「重明」という立派な名前があったのに、お墓に「六僮」と書いた思いは、幼少のころを思い出す人々の思いが込められているように思うんじゃよ。』



クニマツン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター
□齋 でまっすん…

『名前が幾つもあって不思議でまっすん？どうしてでまっすん？』

『名前にも深い意味が込められていたんじゃよ。次回は、谷村家の子孫から聞いた様々な「六僮」話をしようと思っているぞ。』